

平成26年度第1回ハタハタ資源対策協議会資料

表1 秋田県における漁獲可能量と漁獲実績の推移

単位:トン

年	沖合			沿岸			合計		
	配分枠	漁獲量	実績(%)	配分枠	漁獲量	実績(%)	配分枠	漁獲量	実績(%)
平成 7年	85	54	63	85	89	104	170	143	84
8年	110	86	78	110	157	143	220	243	111
9年	180	148	82	180	280	155	360	428	119
10年	300	162	54	300	438	146	600	599	100
11年	400	142	36	600	580	97	1,000	722	72
12年	400	265	66	600	902	150	1,000	1,166	117
13年	520	506	97	780	986	126	1,300	1,493	115
14年	680	384	57	1,020	1,570	154	1,700	1,954	115
15年	960	907	94	1,440	2,051	142	2,400	2,958	123
16年	1,000	707	71	1,500	2,349	157	2,500	3,055	122
17年	1,000	489	49	1,500	1,867	124	2,500	2,356	94
18年	800	944	118	1,200	1,640	137	2,000	2,584	129
19年	720	847	118	1,080	765	71	1,800	1,612	90
20年	1,200	868	72	1,800	2,035	113	3,000	2,903	97
21年	1,040	1,054	101	1,560	1,475	95	2,600	2,530	97
22年	960	457	48	1,440	1,277	89	2,400	1,734	72
23年	1,120	677	60	1,680	1,287	77	2,800	1,964	70
24年	1,080	376	35	1,620	931	57	2,700	1,307	48
25年	768	624	81	1,152	898	78	1,920	1,522	79

※ 平成9年以降は、沖合は管理漁期(9月～翌6月)、沿岸は漁期(11月～翌1月)の合計値 (水産漁港課調べ)

◎H25年の配分枠に対する実績は、沖合 81 %、沿岸 78 %、全体で 79 %となった。

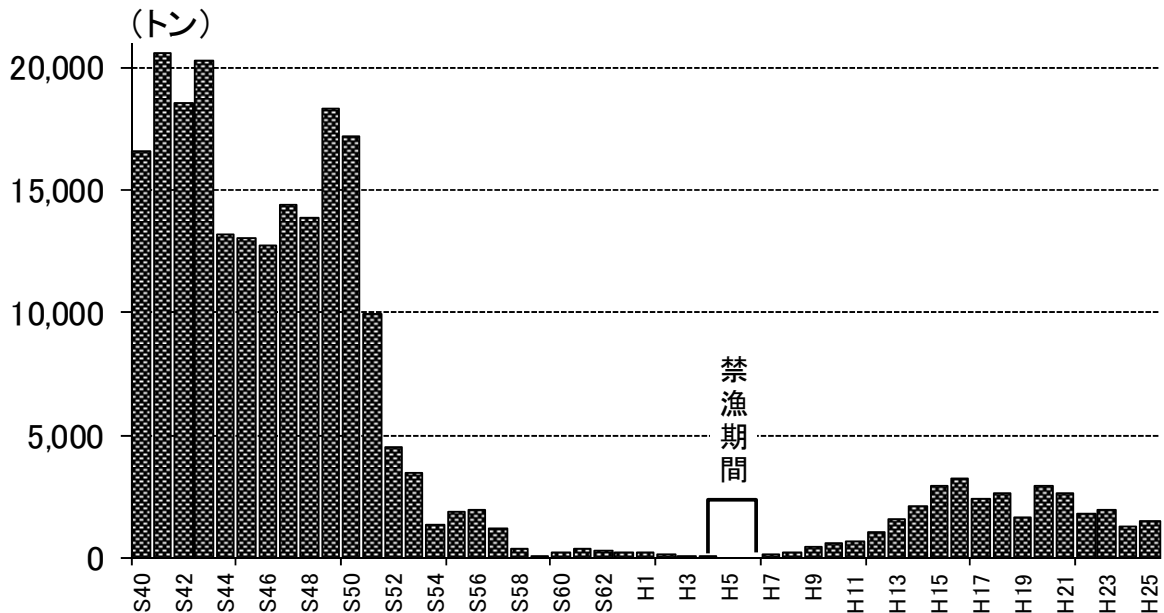


図1 秋田県におけるハタハタ漁獲量の推移

(1-12月漁獲量:H24年までは農林水産統計、H25年は水産漁港課調べ)

◎H25年の本県漁獲量は 1,492トンで、前年比べて約200トン増加した。

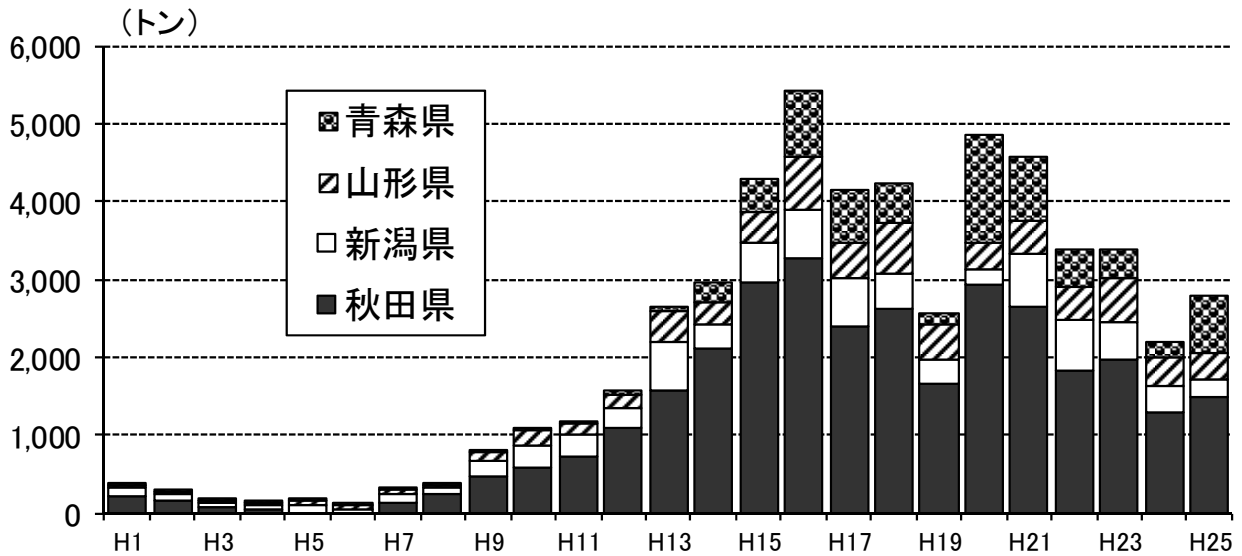


図2 日本海北部4県における漁獲量の推移（H25は水産振興センター調べ）

- ◎H25年の4県漁獲量は2,776トンで、前年漁期より約650トン増加した。
- ◎このうち秋田県の割合は54%で、前年に比べ7ポイント低下した。
- ◎県別では秋田1,492トン（前年比115%）、青森722トン（346%）、山形340トン（91%）、新潟222トン（70%）で、青森で大きく増加した一方、山形と新潟は減少した。

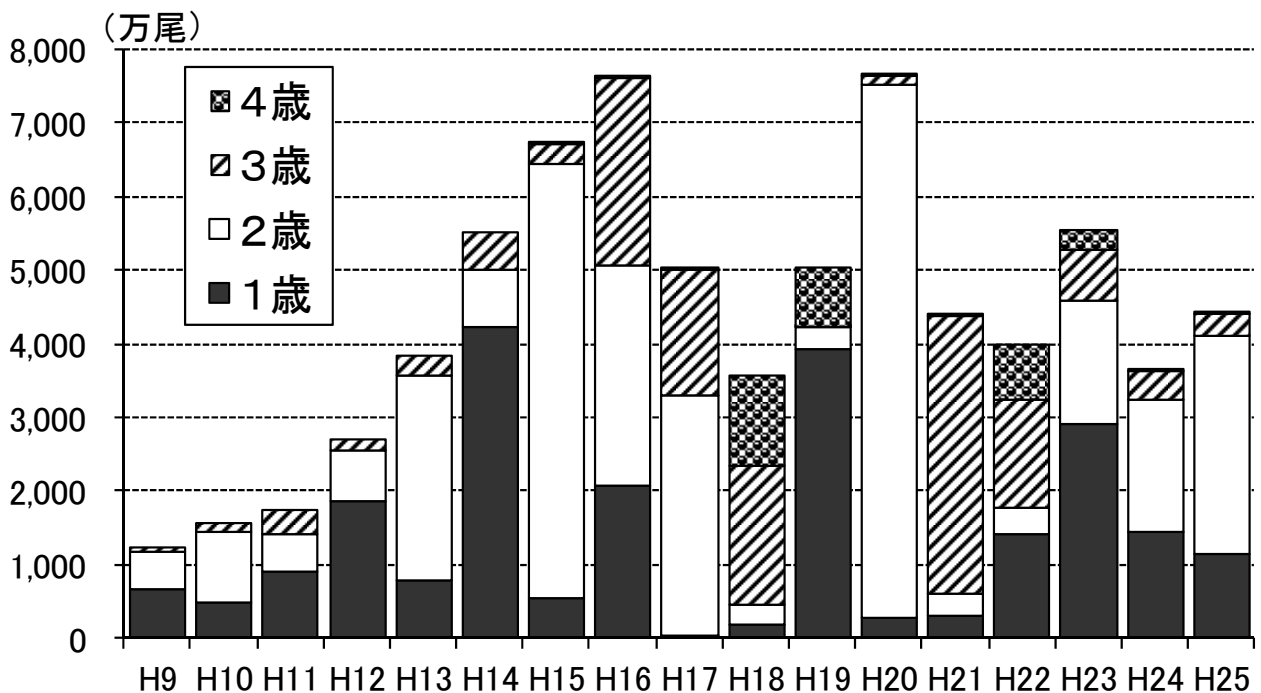


図3 日本海北部4県における年齢別漁獲尾数の推移（水産振興センター調べ）

- ◎H25年漁期は、H23年生まれ（2歳）が最も多く、次いでH24年生まれ（1歳）が多く、3～4歳の割合は低かった。

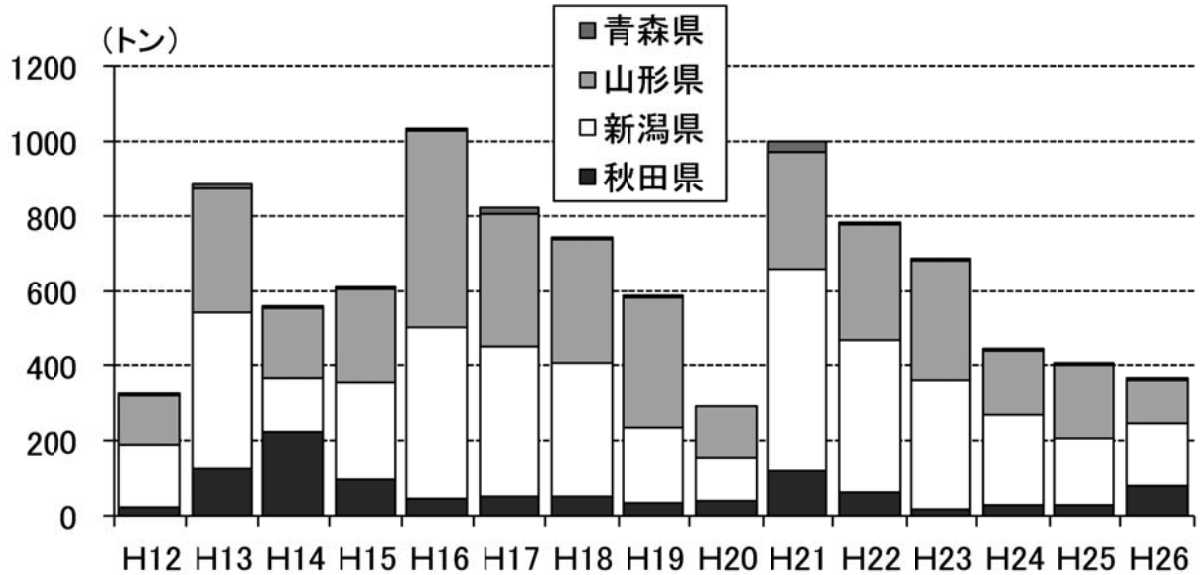


図4 1～6月における日本海北部4県のハタハタ漁獲量

（水産振興センター調べ）

◎本年1～6月の日本海北部4県の漁獲量は370トンで、前年の91%に減少した。各県の漁獲量は、新潟167トン（前年比95%）、山形117トン（59%）、秋田80トン（258%）、青森7トン（2043%）で、秋田、青森での漁獲量増加が顕著だった。

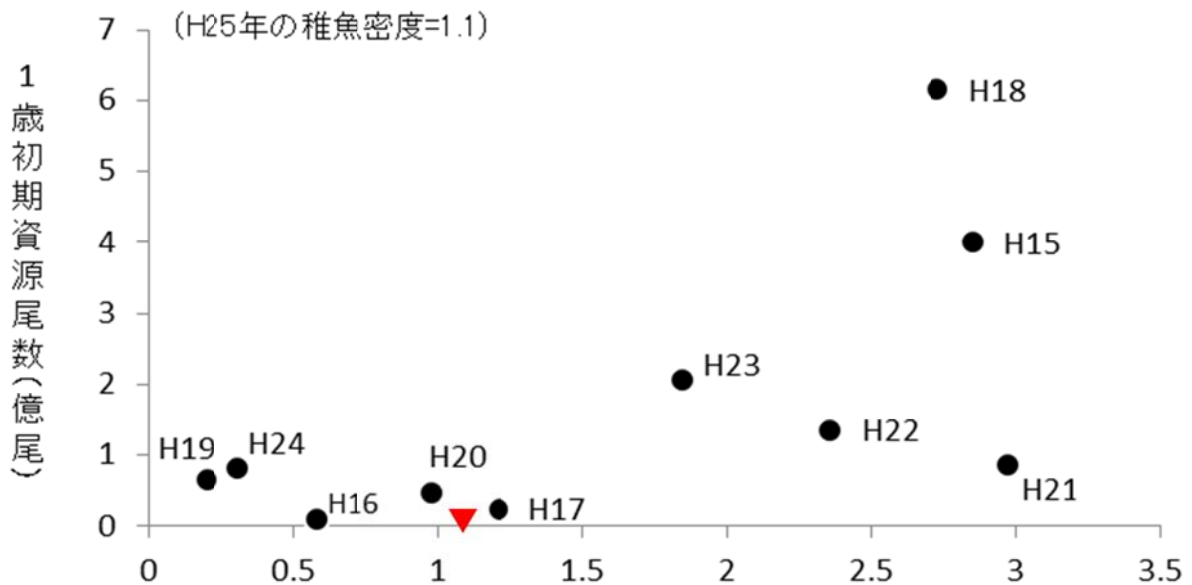


図5 4～8月におけるハタハタ稚魚の採集密度

（2,500m²あたり採集数。調査海域はシグレ周辺水深200m以深）

◎これまでの調査により、秋田市沖の天然礁（シグレ）周辺海域での稚魚密度が高ければ、1歳までの生き残りも多い傾向にあることが分かっている。

◎H25年生まれの稚魚密度は1.1（▼）と低いことから、H25年生まれの資源水準は高くはない可能性がある。

●底びき網での調査結果（成魚：11-12月）

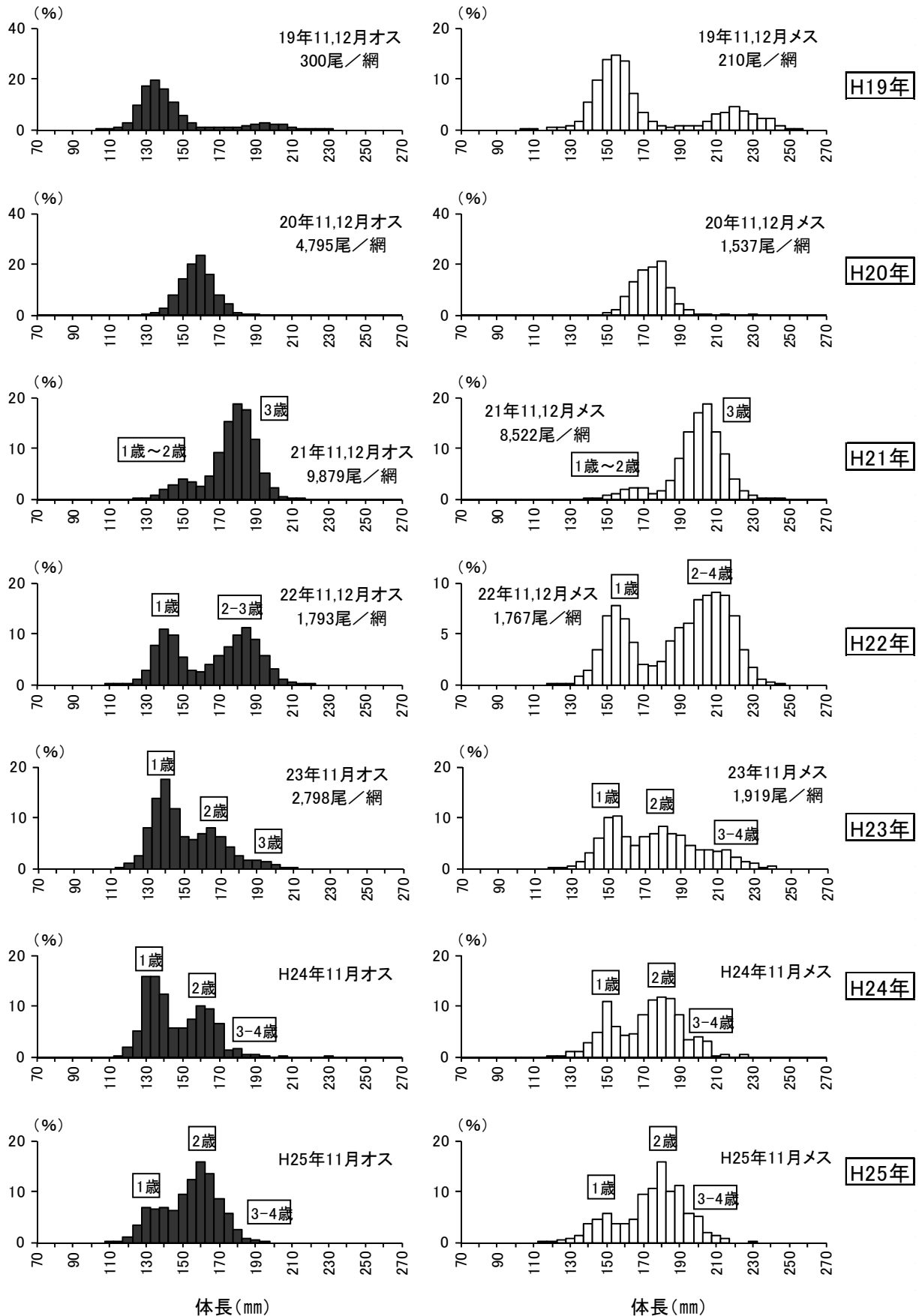


図6 11、12月におけるハタハタ体長組成（千秋丸底びき網調査）

【昨年の傾向】

- ◎オス、メスともH23年生まれ（2歳）が最も多く、次いでH24年生まれ（1歳）が多かった。
- ◎H21、22年生まれ（3、4歳）の割合は低かった。

●底びき網での調査結果（成魚：4-5月，250m以浅）

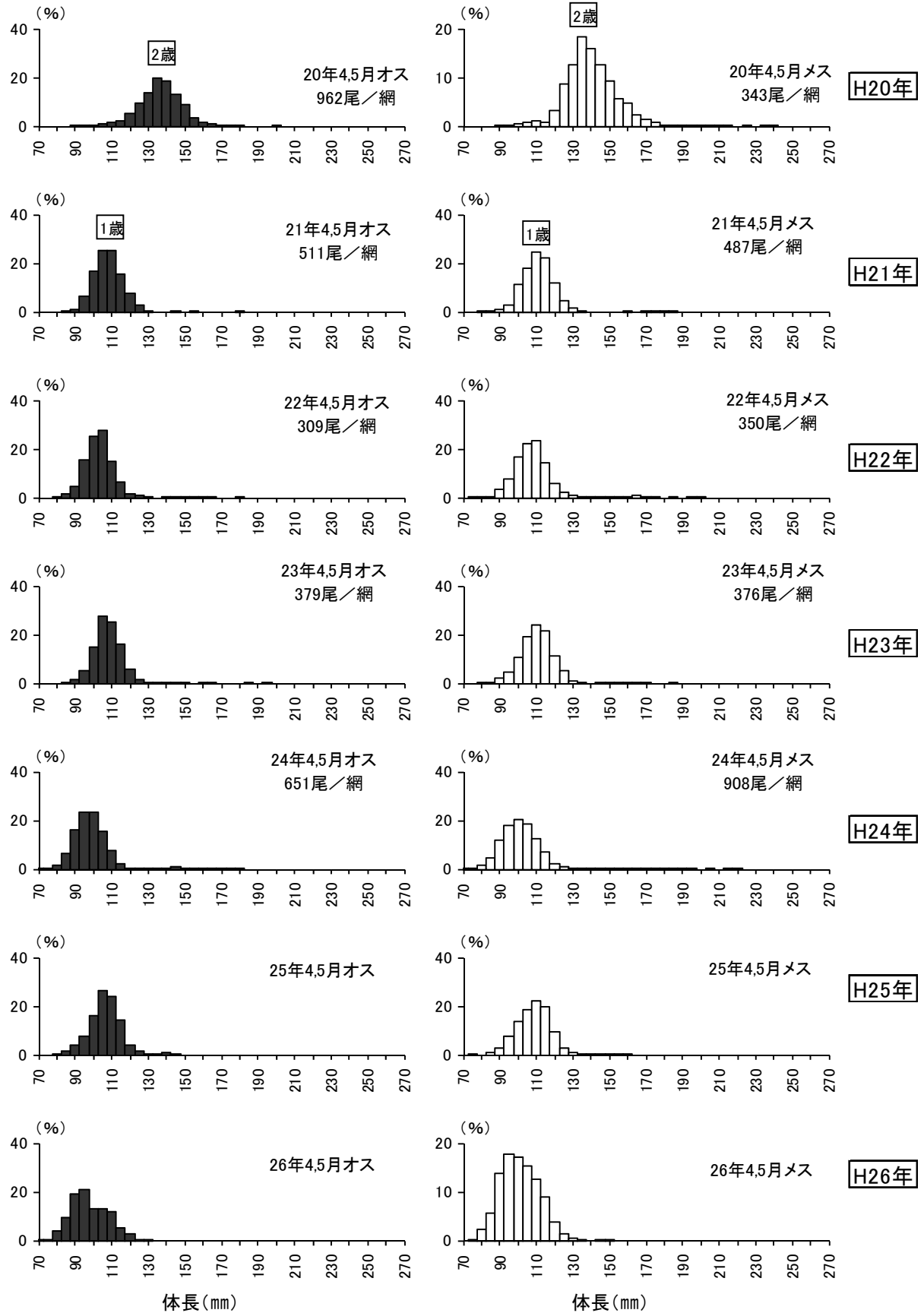


図7 4、5月におけるハタハタ体長組成

（H24年まで第五代千秋丸、H25年以降は第六代千秋丸で実施。H20年以降は250m以浅）

【今年の傾向】

◎H25年生まれ（1歳）の体サイズは、オス、メスともにやや小型が多い傾向にある。

●底びき網での調査結果（成魚：4－5月，250m以深）

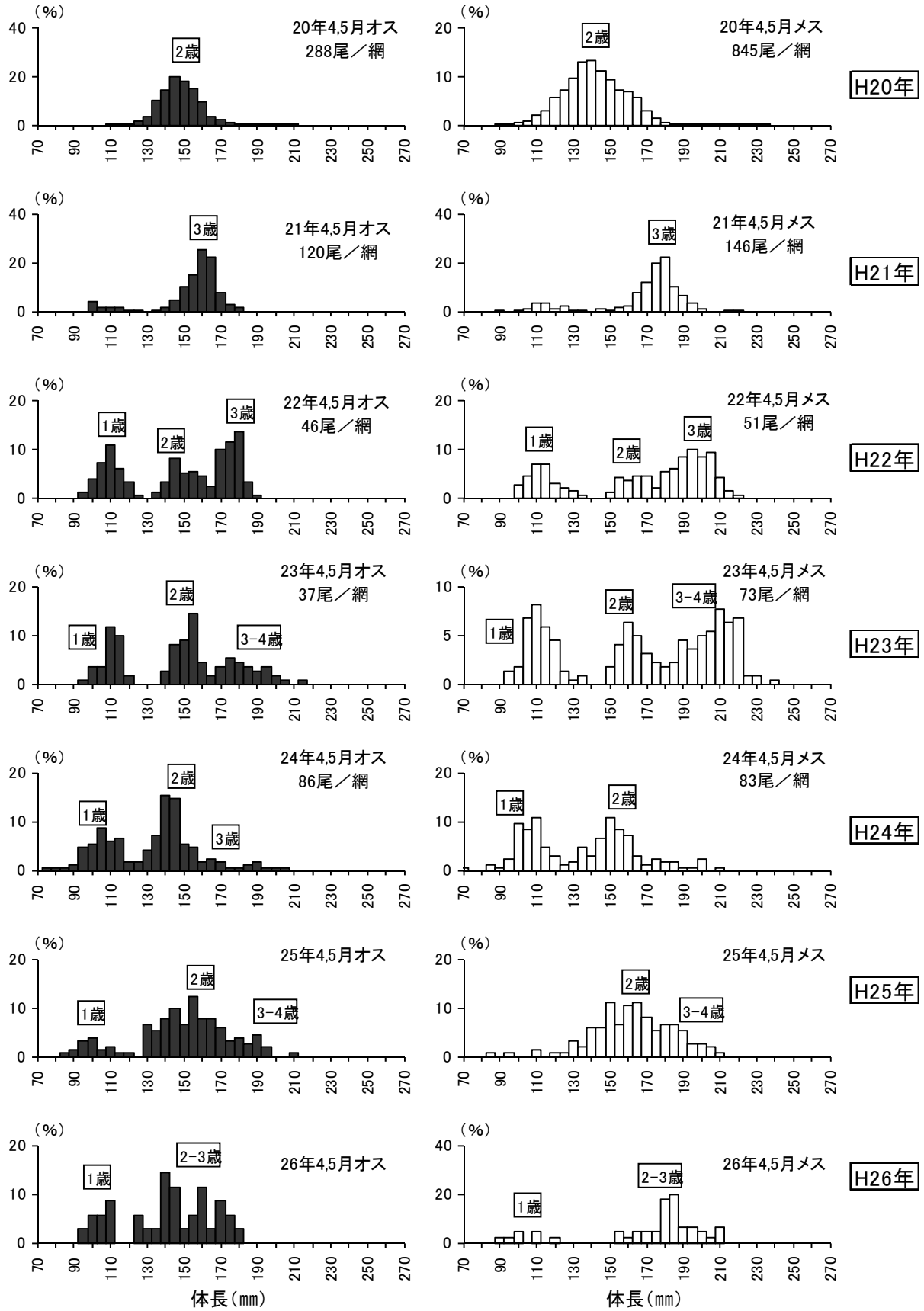


図8 4、5月におけるハタハタ体長組成（水深250m以深）

（H24年まで第五代千秋丸、H25年以降は第六代千秋丸で実施）

【今年の傾向】

◎H24年生まれ(2歳)を中心に、H23年生まれ(3歳)とH25年生まれ(1歳)が分布した。

● 調査船での調査結果（成魚：9-10月）

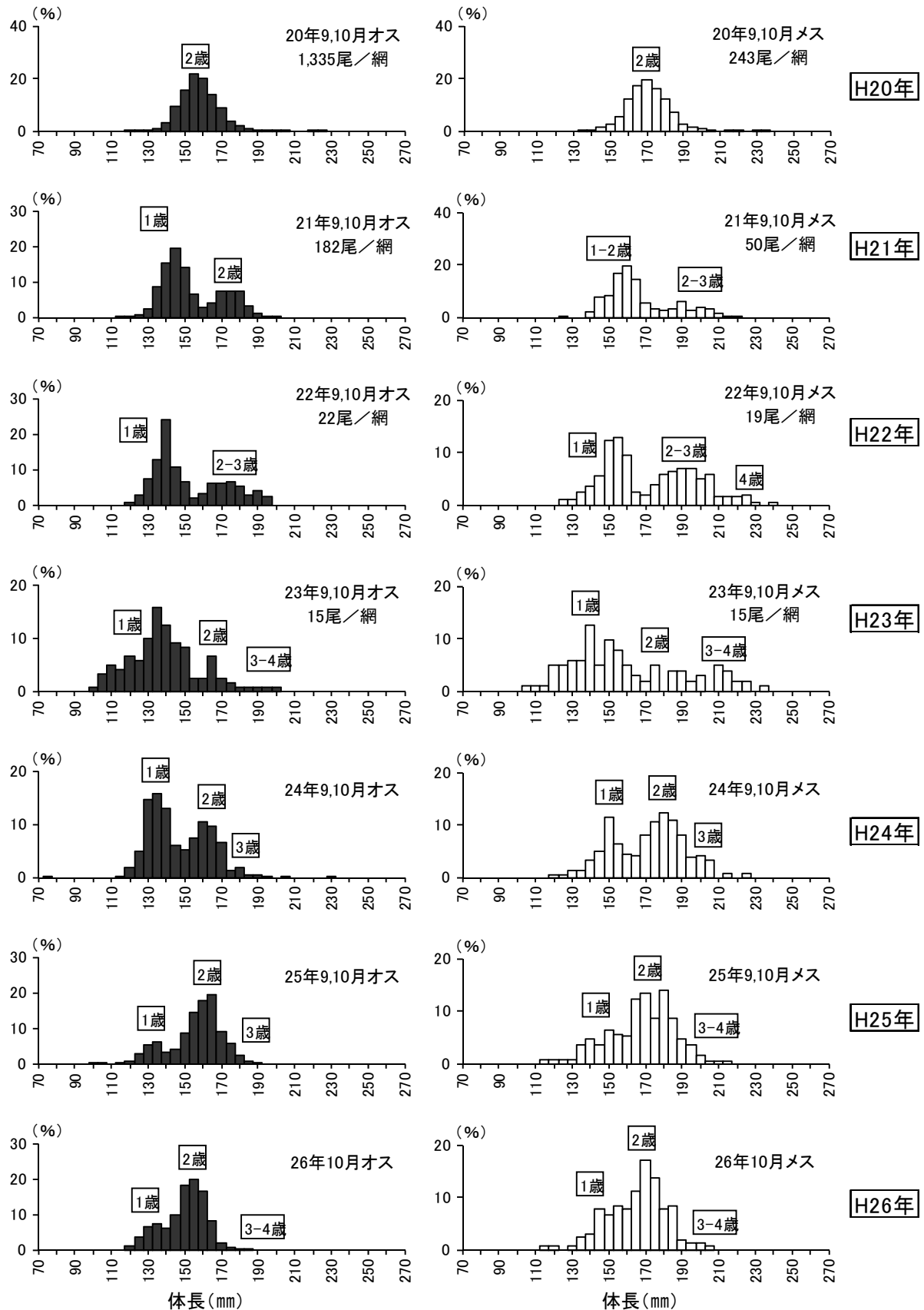


図9 9、10月におけるハタハタ体長組成

(H23年まで第五代千秋丸、H24年は用船調査、H25年以降は第六代千秋丸+民間船データ)

【今年の傾向】

- ◎オス、メスともH24年生まれ(2歳)が最も多く、次いでH25年生まれ(1歳)が多い。
- ◎3-4歳は少ない。

H26年漁期のハタハタ漁獲対象資源量

◎ 2－3歳が中心で1歳も混じる。

→ 今漁期の魚体は、中型が主体。

◎ 解析の結果、秋田県の漁獲対象資源の尾数は 6,683 万尾、重量は約 4,200 トンと推定した。